

全国英語教育学会 平成 27 年度第 2 回理事会議事録

■日 時：平成 27 年 8 月 21 日（金）14:30 ～ 18:00

■場 所：熊本学園大学 11 号館 113A

■出席者：

卯城祐司（会長），伊東治己（副会長，会長代行），佐久間康之（副会長，理事・東北），飯島睦美（副会長，理事・中国），石塚博規（理事・北海道），鈴木智己（理事，幹事・北海道），野呂徳治（理事・東北），松沢伸二（理事・関甲信），大井恭子（理事・関甲信），早瀬光秋（理事・中部），紺渡弘幸（理事・中部），村田純一（理事・関西），大和知史（理事・関西），竹野純一郎（理事・中国），五百蔵高浩（理事・四国），池野修（理事，紀要編集委員長・四国），大坪喜子（理事・九州），島谷浩（理事，熊本研究大会副実行委員長・九州）

<以下，オブザーバー>

佐々木正彦（紀要編集副委員長・東北），寺嶋健史（編集事務局長・四国），志村昭暢（幹事補佐・北海道），金子淳（幹事・東北），本田勝久（幹事・関甲信），藤田賢（幹事・中部），橋本健一（幹事，事務局・関西），猫田英伸（幹事・中国），多良静也（幹事・四国），大下晴美（幹事，熊本研究大会事務局長・九州），小山尚史（会計監査・中国），青木千加子（会計監査・北海道），星野由子（事務局長・関甲信），臼倉美里（事務局・関甲信），清水遥（事務局・東北），深澤真（事務局・関甲信），清水真紀（事務局・関甲信），平井愛（事務局・関甲信），名畑目真吾（事務局・関甲信），長谷川佑介（事務局・関甲信），石井雄隆（事務局・関甲信），伊達正起（事務局・中部），森田光宏（事務局・東北）

議題に先立ち，卯城会長及び熊本大会実行委員長の佐藤勇治先生（熊本学園大学）からご挨拶があった。その後，出席者の自己紹介が行われた。

■議 題：

1) 事務局から総会に提起する議題について（資料 2）

- ・星野事務局長より第 1 号議案「2015 (平成 27) 年度役員」，第 2 号議案「2014 (平成 26) 年度会務報告」，第 5 号議案「2015 (平成 27) 年度事業計画」の説明があり，一部訂正を経て，それぞれ了承された。
- ・会計担当の深澤先生より第 3 号議案「2014 (平成 26) 年度会計報告」が報告され，会計監査の小山先生による第 4 号議案「2014 (平成 26) 年度会計監査報告」を経て，了承された。また，深澤先生より第 6 号議案「2015 (平成 27) 年度予算案」が提案され，一部訂正を経て，了承された。

2) 第 42 回東京研究大会及びシンポジウム，ワークショップについて（資料 3， 4）

- ・幹事の本田先生より 2016 年度に行われる第 42 回全国英語教育学会の準備状況について説明があった。
 - 現段階では，開催地の第 1 候補として青山学院大学（東京），第 2 候補として獨協大学（埼玉）が挙がっており，遅くとも 9 月中に開催地が決定する見込みである。

- 2日目の昼食の時間帯に関東甲信越地区主催のランチョンセミナーを計画している。大学生・大学院生フォーラムとテーマが重複しないように調整を行う。
 - ・大会企画部の森田先生よりシンポジウム、ワークショップのテーマ案が提案された。講師の人選については今後、テーマの内容を慎重に検討した上で関東甲信越地区と相談しながら進めることが確認された。
- 3) 日本英語教育学会との連携について
- ・卯城会長より日本英語教育学会との連携についてこれまでの経緯の説明があり、今後は大会共催などの連携を検討する旨の提案がなされた。
- 4) British Council とのジャーナル共同出版について
- ・卯城会長より British Council とのジャーナル共同出版について説明があった。現在、編集委員会（委員長：齊田智里先生、副委員長：星野由子先生）を立ち上げ、今後、編集作業を行う。ジャーナル発行後は会員に配布する。
- 5) 学会誌掲載論文への二重投稿・重複出版について
- ・紀要編集委員長の池野先生より ARELE への二重投稿・重複出版問題に関する説明があった。
 - 告発を受け、7月上旬に検証委員会を設置し、現在は外部識者の意見や当該論文執筆者へ確認した内容を踏まえ、審議中である。最終判断については来年3月の理事会での報告を目指す。
 - 理事会としては、検証委員会に最終判断を一任することが了承された。
 - 論文の検証と並行して、紀要編集委員会で再発防止策について検討を行い、ARELE 第27号の執筆要領より二重投稿・分割出版に関する規定を盛り込むことが了承された。
- 6) 紀要編集委員会および各部からの提案について（資料5）
- 紀要編集委員会
- ・委員長の池野先生より ARELE 第27号の執筆要領および ARELE 第27号編集計画案が提案され、了承された。紀要編集委員会での審議の結果、ARELE 27 執筆要領に二重投稿・分割出版についての事柄を加えることにし、執筆者が執筆要領を踏まえ研究倫理に基づき投稿することとする、また、査読中の論文の二重投稿・分割出版の判断は査読者に委ねることとする旨の報告があった。理事会の意見として、二重投稿・分割出版への問い合わせについては、紀要編集委員会としては個別には対応しない旨の文言を加えてはどうかという提案があり、了承された。
 - ・昨年度の採択基準の変更により、学会賞の同時受賞が出やすくなると予想される。これに伴い、ARELE 第27号より最高得点の論文が2編以上出た場合、その全てを学会賞とすることが了承された。これに伴い、学会の申し合わせ事項も改訂する。
 - ・ARELE 第26号の学会賞受賞者の報告があった。
- 財務部
- ・事務局の臼倉先生より平成27年度賛助会員について報告があった。2015年8月21日現在30社（昨年

度より3社減)。

- ・今後、賛助会員のメリットを分かりやすく説明する資料を作成し、理解を求めていく。賛助会員と協賛企業との区別が分かりにくい現状があり、また現在は地区学会での賛助会員と全国英語教育学会での賛助会員が独立しているため、今後は地区学会と連携を強めながら賛助会員への割引制度なども視野に入れ、検討を進める。

■研究企画部

- ・事務局の伊達先生より今年度の英語教育セミナーについて説明があった。資料では第3回セミナーの会場が未定であったが、高知大学で開催予定であるという報告がなされた。

■広報通信部

- ・事務局の石井先生より、Newsletterの運用についての説明があった。まだ登録者が83名と少ないため、登録者を増やすための議論が行われた。その結果、各地区学会のメーリングリスト等で登録を促す、Newsletterを流すときに各地区学会事務局にも流し、各地区学会の事務局から各地区のメーリングリストを使用して情報を流す、という提案がなされた。

■社会ニーズ対応推進部

- ・事務局の橋本先生より、大会においてニーズ調査のアンケートを実施すること、また託児所の運用状況・教員研修講師紹介制度・特別支援教育についての現況報告があった。

■学生支援部

- ・事務局の名畑目先生より、熊本大会で行われる大学生・大学院生フォーラムについての報告があった。また、学生会員の旅費補助制度について検討している旨の報告があり、なるべく賞のような形式で実施可能性を探る方向で検討を進めることとなった。

7) その他

- ・2017年度は島根研究大会の予定であるが、開催県の事情により8月19・20日を第一候補として準備を進めることが了承された。その際、北海道地区では8月の第3週目では既に学期が始まっているため、2018年度以降はなるべく8月第1週の週末に開催することを目指して調整を行うことが確認されたが、東北地区学会など地域行事の関係で同時期の開催が困難であるとの意見も出された。

■報告事項：

1) 第41回熊本研究大会について

- ・大会事務局の大江先生より大会当日の注意点などの説明があった。

2) 言語系学会連合第5回意見交換会について（資料6）

- ・副会長の飯島先生より言語系学会連合第5回意見交換会について報告があった。

3) CiNii から J-Stage への移行について

- ・ 紀要編集事務局長の寺嶋先生より CiNii から J-Stage への移行について報告があった。詳細はまだ不明のため、分かり次第、移行に伴う手続きを進める。

4) その他

- ・ 星野事務局長より開会式後の集合写真撮影についての知らせがあった。

■ 配布資料 :

資料 1 出席者名簿

資料 2 総会議題 (案)

資料 3 第 42 回東京研究大会概要 (案)

資料 4 第 42 回東京研究大会のシンポジウム及びワークショップ (案)

資料 5 全国英語教育学会紀要編集委員会および各部からの報告

資料 6 言語系学会連合第 5 回意見交換会議事録

参考資料 本会会則および申し合わせ